

原作●海老沢泰久
(新潮社刊)

監督●小谷承靖

中井貴一
田中 健
石原真理子
勝野 洋
峰岸 徹
森本レオ
木之元亮
藤木 悠
范文雀
(特別出演)
地井武男
高橋幸治

F2ゴッドピン

走る前の男に、出会ったことがあるか。

製作●高井英幸 / 脚本●長田紀生
撮影●上田正治 / 照明●小島真二
美術●薩谷和夫 / 録音●田中信行
音楽●羽田健太郎 / 編集●池田美千子
製作担当●橋本利明

協力●鈴鹿サーキット

TEAM IKUZAWA
原田レーシングカンパニー
チーム ル・マン
レーシングメイトプロジェクト
John player Special
マリチスタインタイヤ株式会社
株式会社 無限

レース関係協力●本田技研工業株式会社
主題歌●「セカンド ヒーロー」(東芝EMI)
唄●中井貴一 / 作詞●大津あきら

作曲●鈴木キサブロー / 編曲●川村栄二
製作●株式会社東宝映画 / 配給●東宝株式会社

東宝

4月14日(土)より東宝系公開

¥1,200(当日一般1500円、学生1300円の外)

千代田劇場

渋谷宝塚

上野東宝

新宿東宝ビレッジ

新宿コマ東宝

池袋東宝

江東劇場

浅草東宝

蒲田宝塚

吉祥寺東宝

八王寺東宝

サーキットには男のドラマがある

解説

辛く、長い30周の孤独な闘い。レーサーたちの野望と苦悩がマシンと一体となって、サーキットを疾走する。これは“日本一速い男”の座を求め、100分の1秒の世界で奇烈な闘いを繰り広げる男たちのドラマである。

海老沢泰久の原作を、シャープな映像感覚の小谷承靖が映画化し、スピードの限界に挑む男達の姿を鮮やかに描き出す。出演は主人公の新人レーサーに中井貴一、その恋人に石原真理子、永遠のNo.2レーサーに田中健、さらに勝野洋、峰岸徹、地井武男、高橋幸治など多彩な顔ぶれ。

もうひとつの主人公は日本最高のF2マシンである。凄まじい轟音とスピードは見る者を圧倒し、エキサイティングな感動を与えずにはおかない。F2レースシーンのために、鈴鹿サーキット、本田技研工業の全面協力を得、中井貴一と中嶋悟、田中健とジェフ・リース、峰岸徹と松本恵二という超一流レーサーとのダブル・キャストが実現した。撮影のあい間には中嶋選手からレースの指導を受ける貴一の姿があった。また、レース界の育ての親・生沢徹が協力参加しているのも話題である。



井本 豊(田中 健)

中野 訓(中井貴一)

かつては爆走族として名をとどろかせたヒーローも、先輩レーサーの死と直面し、その獣のような闘志が消えようとしていた。孤独なレーサーの苦しみは彼の肩に重くのしかかっている。

恋人しのぶとの愛に悩み、F3からF2レースにデビューした新人レーサー。その動物の坎の鋭さと見事なテクニックで、最終戦では無調整のマシンに新ラジアルタイヤを装着して走り続ける。

F2グランプリ

原作 ■ 海老沢泰久 (新潮社刊) 監督 ■ 小谷承靖

〈キャスト〉

中野 訓……中井 貴一 井本 豊……田中 健
宇佐美しのぶ……石原真理子 佐々木圭二……峰岸 徹
藤巻健太郎……勝野 洋 有田 啓三……高橋 幸治
島田 充男……地井 武男 村上 之広……森本 レオ
永井 和夫……藤木 悠 宇佐美江津子……范文雀
宇佐美典義……木之元 亮 小宮 夏子……八神 康子
上松……佐々木勝彦 平木……千葉 裕
テクニカル・アドバイザー……中嶋 悟

製作 ■ 株式会社東宝映画

配給 ■ 東宝株式会社

物語

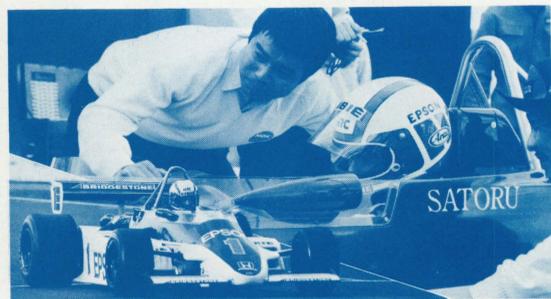
F2シリーズの第2戦。宇佐美、佐々木、井本、中野のマシンが肉迫していた。残り10周。その時ヘアピンで4台が接触した。佐々木は難を逃がれ走り切ったが、3台は激突した。井本、中野は奇跡的に助かった。だが宇佐美は絶命していた。



中野は速く走ることにだけに取り付かれていたが、兄の死に直面したしのぶは中野を愛するがゆえに、死の影を予

感し、おびえていた。そんな時、中野はラリー車のテスト中に壁に激突し、左足骨折という重傷を負った。傷ついた中野の姿はしのぶにはたえられなかった。井本の瞳からレーサーに特有な獣の光が消えていた。恋人の夏子は井本から去っていった。

9月の第4戦。井本はまた佐々木に負けた。中野は完治していない体で挑んだが結果は無残だった。しかし、デモン自動車の有田とチャンピオン・タイヤの永井は中野に賭けていた。次のレースには最近エンジンと超高速ラジアルタイヤを中野のマシンに装着しようとしていた。負け犬の井本もレースを棄てたのではなかった。チーム監督の島田と関東テレビの村上は井本の瞳にかつての獣の光を戻そうと必死になっていた。



F2シリーズ最終戦。予選で井本は見事ポール・ポジションを獲得した。中野も走った。デモンエンジンは快調だった。しかし、2度目のトライアルで佐々木の妨害にあい、スポンジバリアに激突してしまった。オーナーの藤巻らの徹夜の修復で翌日のレースには走れそうだが、バランスの歪みは残る。初めて3番手となった佐々木は、ふと別れた妻に電話をかける気になった。「子供は元気か」——気力の迷いがあった。いよいよレースの時が来た。スタンドの群衆の中に駆けつけたしのぶの姿があった。そして、19台のF2マシンが轟然と飛び出していった。

恐れるものは何もない

